

2010.7.1訪問



青年部員のついでに 事業所いきまわって 聞きたい第七回 杉山プリントさん

事業所訪問記事をお届けするのも3ヶ月目に入りました。今回、訪問させていただいたのは、現在青年部の杉山正樹さんが勤務されている杉山プリントさんです。

(文・堀井英敬)



訪問してみて一般にプリントと聞いて思うのが、パソコンのイメージが強かったが、服・色紙・靴など素材を問わず施工していく技術に感嘆しました。

あなたの今着てるTシャツも実は杉山プリントの製品だったりするかも?

杉山プリントは創業30年。下駄屋、釣具屋を経て、現在はプリント事業ということで、時代と共に変化してきました。



「オノのシキョウ」について教えてくださいな

●うれしいと思うことは何ですか？

『嵐』などの有名人が自分がプリントしたTシャツを着てTVに出演している時。他には、ユニフォームやジャンパーなどで自分が携わった中学校や高校のチームが、甲子園や全国大会で活躍することもある。

●シライシとは？

毎回、ミリ単位の仕事求められるミス許されない一発勝負。千円のTシャツも十萬円のジャケットも、一枚プリントしてもらえ費用は同じ。でも、失敗すると十萬円のジャケットでも買い取りになってしまう。しかも卸値でなく定価でなんてことも！ 今のアパレル業界の海外進出によって価格破壊や、これまでの商習慣を無視した交渉がまかりとおっています。

●普段気を付けていることは？

色合い。紙でプリントされた色と、実際に生地プリントした時に色合いが変わってくる。経験からアドバイスしても、なかなか理解してもらえない。

●仕事で工夫していることは？

生地の購入からアレンジに至るまでの企画製作を自前で行うことで、収益性の高い商品を扱えるように努力している。当然、こだわりのプリントでお客様のニーズに応えたものを市場に提案している。

●仕事を通じて学んだことは？

また、最近多いのは中国製のプリントで出たNG商品の手直しなんて仕事があり、大量生産にそぐわない小回りの効いた仕事をきちんとやっている。

●今後の事業の発展に向けて

ひとつひとつの仕事や、ひとつひとつ丁寧になすこと。価格が高かろうが、安かろうが常に同じ気持ちで取り組む。価格競争に埋もれないように、自らの仕事に価値を持たせ、決して値段で勝負しなくても、お客様に大切にしてもらえようように努力していくことと思っています。